事例No.	3097
公表年度	R6
団体の属性	都道府県
団体名	三重県

事例区分	DX

タグ	・教育・子育て ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	子育て

事例内容・タイトル

AIを活用した児童虐待対応支援システム

出典

自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ（第2回）③

本格導入 05

AIを活用した児童虐待対応支援システム（三重県）

導入分野：児童福祉・子育て

AIの機能：数値予測

クラウド

非公開データ

■事業概要：

- 導入の背景・目的：2012年度に虐待による児童の死亡事例が2件発生したことを契機として、検討会を立ち上げて児童虐待対応の見直しを進め、2013年度に三重県版リスクアセスメントツール（チェックリスト）を開発、2014年度から運用を開始した。約６年間の運用により蓄積したデータの分析・研究を経て、令和元年度に、リスクアセスメントツールをタブレットに搭載し、AIによるリスク度や、類似事例を参照できるシステムの実証実験として、2020年度から本格導入している。
- 業務へのAI導入・サービス選定理由：検討会から協力を得ている学識経験者が、AIの研究にも取り組んでおり、AIを活用したシステムを開発した。他に同様のシステムサービスが存在せず、三重県が求める業務要件を満たすため選定した。

■効果：

- 過去の事例から導いたケースのリスク度や特徴により児童を一時保護すべきか等の判断の参考にできる。
- シミュレーション機能を活用して経験が浅い職員が自発的に勉強するなど人材育成につながっている。

■取り扱う主なデータと共有・提供の範囲：

- 取り扱うデータ：児童虐待のリスクアセスメントに関するデータ。2014年度の運用開始以降蓄積した対応事例のデータを学習しており、過去の類似事例も参照できる。
- 共有・提供の範囲：タブレットに入力したデータは、機密性が高いため厳重に、専用サーバ上に蓄積され、原則1日に一度csvデータから庁内サーバに手動で入力している。
- 機能・セキュリティ：県内6か所の児童相談所にAIを搭載したタブレットを配布し、外出先でもシステムが使えるようになった。セキュリティ要件は厳しく、別途契約した閉域のネットワーク回線を利用している。タブレットには情報は残さない仕組みとなっている。

タブレット端末用アプリの画面イメージ



■今後の更なる展開に向けた課題・示唆等：

- 今後も安全性・信頼性を確保した上で継続利用していきたい。市町や他県への普及を図り、他の自治体の対応事例も学習できると、よりAIの予測精度を高めると共に、費用負担の軽減に繋がると考えている。
- AIが示す数値を業務に活用するための知見やAIの読み解き方について研修を行い、より質の高い判断ができるよう取り組むほか、職員の利便性向上のため共有する情報の追加や、庁内サーバへの入力作業の簡素化を行う。

スケジュール

- 2012年度：児童虐待の死亡事例発生。
- 2013年度：検討会を立ち上げ、三重県版アセスメントツールの開発。
- 2014年度：アセスメントツールの運用開始。
- 2019年度：AIを活用した児童虐待対応システムの実証実験を開始。
- 2020年度：県内全ての児童相談所において本格運用を開始。

事例のポイント

- 児童虐待対応に関する業務改善の流れの中で、AIの導入に至った事例である。
- 庁内システム・AIを構築した専用環境・タブレットのそれぞれについて、取り扱うデータや授受の方法等を工夫することで、機微な業務分野においてもAIを活用した業務効率化を実現している。